

会員のひろば

「江戸時代の大暴風雨と木津川」 ～祝園神社も流された～

ふるさと案内人副会長 池田壮六

今年も「台風」の季節を迎えます。去年は早くから度々発生して北上を繰り返し、その都度「近畿を直撃か？」とヒヤヒヤさせました。ヒヤヒヤを繰り返す内に「昔、大方の家が藁(わら)屋根、人々は野山で働き雨具は蓑(みの)笠(かさ)程度、堤防は低く脆(もろ)い。そんな時代に台風ほどのくらい来て、どんな被害を残していたのだろう」と疑問を持ちました。

この事は新米の“ふるさと案内人”としても、知識の一端に加えておけば将来何かの役に立つだろうと欲を出し、一旦は調べてみましたが分らぬままに日々が過ぎました。



ある日、木津川は昔から洪水が多発した川、過去の『洪水の原因』を探ることで手懸かりが？と考え、関係資料を漁(あさ)ると天正元年(1573)以降のものが見付かり、出来るだけ古い時代の状況を掴みたいと、慶応年間までを整理すると295年間分がありました。

それらの資料の中には、「〇年〇月〇日、南山城大暴風雨により木津川筋の堤各所で切れ被害甚大」等のように、ズバリ知りたい内容に近いものも一部ありました。

纏めた結果、様々な原因の木津川の洪水は計197回ですが『台風』による洪水は63回です。台風は平均約4.5年に1回来ています。寛政3年(1791)には4回も来ています。

正徳2(1712)年も3回来て西日本は大荒れの年になっています、特に8月18日の大風雨は祝園村内を水深約2.5mの水浸しにし、祝園神社を船地区まで流し、民家300軒の内220軒の流潰失と溺死53人を出し、南村が西方に移転の契機になりました。

享和2年(1802)6月の大風雨も木津川の水位を約4.5m高め、菱田村の堤が約450m切れる大洪水を発生させ、慶長12年(1607)に山城・大和・伊賀を襲った大風雨は上野城天守閣を倒壊させています。どの台風も広い範囲に大被害を出しています。



台風の最多襲来月は8月の23回、続いて7・6・9月の順、12月と1月はありません。襲来は殆どが1日のみですが、2日以上が15回、5日とか6日間も続けて雨風が吹き荒れる恐ろしい年もありました。約300年の間には色々なタイプの台風があったようです。

台風の外に、集中豪雨・長雨や逆に早魃とか地震等の様子も見られますが、紙面の都合で割愛します。さて、今年はどうな特色の年になるのでしょうか??

ご笑読に感謝、謝々。

【資料は旧暦です 実質時季は現在より約1ヶ月遅いです。】

あなたもシルバーを利用してみませんか

下記のようなことで困ったら、まずは事務局へ電話で相談してみてください。当シルバー人材センターでは今まで下記のような仕事の実績があります。

- ・ 庭木の手入れをしてもらいたいとき。
- ・ 畑や空き地の草刈をしてほしいとき。
- ・ 庭の草引きをしてほしいとき。
- ・ 庭木の水やりをしてほしいとき。
- ・ 毛筆等での宛名書きや賞状書きをしてほしいとき。
- ・ 建物管理をしてほしいとき。
- ・ ふすま、障子、網戸の張替えがしたいとき。
- ・ 駐車場管理をしてほしいとき。
- ・ 屋内や屋外の清掃をしてほしいとき。
- ・ 家事援助が必要なとき。
- ・ パソコンやデジカメ等の操作で困ったとき。
- ・ 一般事務の手伝いが必要なとき。
- ・ ちらしの配布をしてほしいとき。